

あぶたん つうしん 171号

洪水から地域を守る！！ ～水門等水位観測員講習会を実施～



平成30年2月20日（火）、岩沼市民会館において、仙台河川国道事務所が管理する水閘門の観測員を対象にした「平成29年度水門等水位観測員講習会」を開催しました。

この講習会は年1回行われており、この日は9名の水門等水位観測員が出席し、水門等（樋門・樋管）の操作方法や点検方法、水位観測とゲート操作に関する簡単なテストや、水位記録簿の記入実技を行い再確認しました。



水位観測員とは？ どんな人？



水位観測員とは、洪水時に私たちの安全な生活を守ってくれている人たちです。正式名称は、『水門等水位観測員』といいます。国が管理している洪水時の逆流を防ぐ水門（樋門・樋管）があり、各水門ごとその近くにお住まいの方に担当してもらっています。



いつ、どのようなお仕事をやっているの？



大雨などにより河川が増水した場合には、河川水の量（水位）を監視し、河川水が住居区域や田んぼへ流れ込まないように水位状況に応じた適切なゲート操作をしています。悪天候の中、昼夜を問わず出勤して頂く必要があるため、その対応が出来る方に国から任命し、お願いしています。

また、洪水時に確実な操作が行えるよう、定期点検、地震や災害時の臨時点検も行っています。水門等水位観測員が地域の安心・安全のため尽力されています。



水位記録簿の記入の様子



講義している様子

震災を風化させないプロジェクト ～震災の記録・記録の見える化への取り組み～ 東日本大震災メモリアル施設設置式が行われました

東日本大震災から得られた教訓を未来に伝承して災害の最小化に努めるため、関係機関の連携による継続的な情報発信が必要との問題意識から、被災地で数多く実施されている震災遺構・追悼施設・語り部による活動などの震災の記録や記憶を残す取り組みを見える化し一元的に提供する仕組みづくりの構築を目指すものとして第8回復興加速化会議で、「震災を風化させないプロジェクト」を立ち上げました。

2月28日(水)に東日本大震災メモリアル施設整備実行委員会が主催となり、震災の経験と教訓を風化させず、忘れずに、後世に伝える看板を岩沼市千年希望の丘(岩沼市下野郷字浜地内)に設置しました。



河川情報管理官による震災当時の説明



メモリアル施設



排水ポンプ車の展示



記念撮影

